

[13] 鋳業（非鉄金属製錬・精製業）

12/11 13/12

◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%

：天気図マーク： ◎ ◎

○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要（表－1～3参照）

銅：12年度は、建設・電販向け電線の増加等により、前年度比4.0%増の1,344.4千トであった。13年度は、半導体、ITコン、パソコン用コネクタ向け伸銅品及び通信、電力向け電線の減少が見込まれること等から前年度比4.4%減の1,285千トの見通しである。

鉛：12年度は、猛暑、厳冬による鉛蓄電池取替需要等の増加により、前年度比3.7%増の250.5千トであった。13年度は、前年度取替需要増の反動減等が見込まれること等から前年度比2.4%減の245千トの見通しである。

亜鉛：12年度は、亜鉛めっき鋼板向けの増加等により前年度比0.9%増の598.6千トであった。13年度は、アジアを中心とする鋼板輸出の減少による亜鉛めっき鋼板向けの減少が見込まれること等から、前年度比3.9%減の575千トの見通しである。

(2) 生産・設備稼働（表－1～3参照）

銅：12年度は、一部製錬所の生産能力アップ等により、前年度比6.6%増の1,456.3千トであった。13年度は、一部製錬所の設備改修工事が計画されていること等から、前年度比1.0%減の1,442千トの見通しである。13年度の設備能力は若干増強が計画されており、稼働率は、前年度を下回る見込みである。期末在庫は、12年度が前年同期比11.8%減の113.2千トであり、13年度は、前年度とほぼ同水準の112千トの見通しである。

鉛：12年度は、一部製錬所の定期修理取り止め等により、前年度比4.1%増の239.3千トであった。13年度は、前年度比2.4%減の234千トの見通しである。13年度の設備能力に変化はなく、稼働率も前年度と、ほぼ同水準を見込んでいる。期末在庫は、12年度が前年度比8.7%増の22.4千トであり、13年度は、12.1%増の25千トの見通しである。

亜鉛：12年度は、順調な操業により前年度比2.5%増の652.2千トであった。13年度は、前年度比0.3%増の654千トの見通しである。13年度の設備能力に変化はなく、稼働率も前年度と同水準を見込んでいる。期末在庫は、12年度が前年度とほぼ同水準の112.2千トであり、13年度は、前年度比11.4%増の125千トの見通しである。

(3) 企業収益（表－4参照）

12年度の非鉄大手8社の売上高は前年度比3.2%増の17,785億円、経常利益は前年度比58.9%増の889億円と増収増益となった。

売上高については、銅地金の販売価格の上昇・増販、前半期のIT関連向け電子材料部品の好調により増収となった。経常利益については、電子材料部門の好調、不採算部門からの撤退、徹底したコスト削減効果等により大幅な増益となった。

13年度見通しは、為替及び金属価格等の先行きが不透明であることに加え、IT関連需要の減退が長期化すると予想しており、売上高は前年度比1.9%減の17,447億円、経常利益は前年度比6.4%減の832億円と見込んでいる。

2. 設備投資動向（グラフ1参照）

非鉄金属製錬・精製業の目的別設備投資の特徴としては、生産関連設備の維持・補修、増強が中心となる。12年度は、通常の投資に加えて、金属事業や電子材料、環境事業等成長分野と位置づけている事業への投資が実施されたことから、前年度比52.6%増の見込みである。

13年度も、通常の設備投資に加えて、事業の「選択と集中」により、コア事業となる金属事業や電子材料、環境事業等成長分野への投資を集中させていく傾向にある。また、必要不可欠な投資を除き、投資の必要性等を厳密に吟味していく見込みであり、前年度比38.9%増の見通しである。

3. 長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

12年度は、既存設備の維持・補修に加え、成長分野への投資を実施したため設備資金額は増加したが、投融資について関連会社への投資が減少したため、前年度並みとなる見込みである。

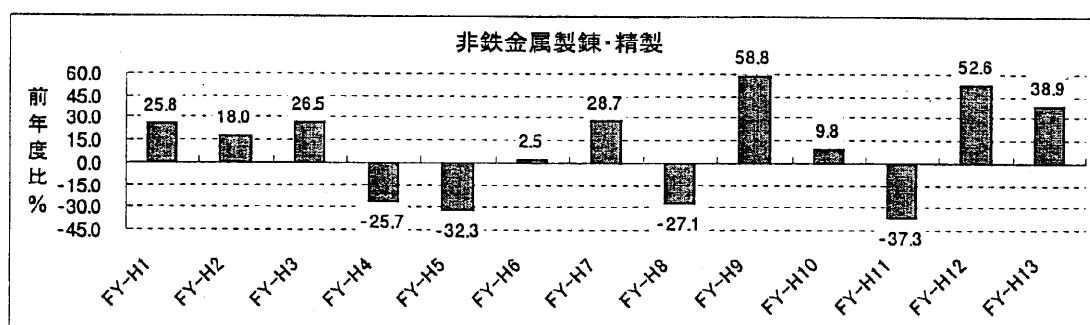
13年度は、引き続き、成長分野への積極的な投資を行うため設備資金は増加するが、投融資については、一部の企業の海外投資が大幅に減少すること、加えて、短期資金での運用が増加するため、全体では長期資金は減少する見通しである。

(2) 長期資金調達動向

12年度は、前年度同様、経営状況を改善するために総資産（棚卸資産や保有株式等）や借入金を圧縮し、長期借入金は減少する見込みである。

13年度も、各企業とも借入金を圧縮させる傾向に変わりがなく、主に減価償却費等の内部資金で賄っていく計画である。また、一部の企業では、社債の償還を実施する予定である。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）



表－１ 銅地金の需給実績及び見通し

(単位：千トン)

		10年度	11年度	12年度	13年度(見通し)		
					上期	下期	計
期	初 在 庫	144.2	135.2	128.3	113.0	113.0	113.0
供給	生 国 内 鉱 出	0.7	0.9	0.9	0.5	0.5	1.0
	海 外 鉱 出	1,156.2	1,228.7	1,309.3	644.5	660.5	1,305.0
	産 そ の 他	124.3	136.8	146.1	68.0	68.0	136.0
	小 計	1,281.2	1,366.4	1,456.3	713.0	729.0	1,442.0
	輸 入	258.0	226.1	208.8	102.0	72.0	174.0
給	供 給 計	1,683.4	1,727.7	1,793.4	928.0	914.0	1,729.0
需要	内 電 線	873.0	804.3	844.2	406.0	432.0	838.0
	伸 銅	449.6	466.7	464.4	206.0	211.0	417.0
	需 そ の 他	18.0	21.6	35.8	15.0	15.0	30.0
	小 計	1,340.6	1,292.6	1,344.4	627.0	658.0	1,285.0
	輸 出	320.4	305.8	299.3	166.0	134.0	300.0
要	需 要 計	1,661.0	1,598.4	1,643.7	793.0	792.0	1,585.0
期	末 在 庫	135.2	128.3	113.2	113.0	112.0	112.0
過	欠	▲ 112.8	1.0	36.5	22.0	10.0	32.0
設	備 能 力	1,320.2	1,406.0	1,460.9	748.2	748.2	1,496.4
稼	働 率	97.0%	97.2%	99.7%	95.3%	97.4	96.4%
地	金 再 資 源 化 率	9.7%	10.0%	10.0%	9.5%	9.3	9.4%

表－２ 鉛地金の需給実績及び見通し

(単位：千トン)

		10年度	11年度	12年度	13年度(見通し)		
					上期	下期	計
期	初 在 庫	26.0	32.2	20.6	22.4	28.1	22.4
供給	生 国 内 鉱 出	7.5	6.4	8.9	2.9	2.8	5.7
	海 外 鉱 出	135.1	116.6	120.8	54.3	56.8	111.1
	産 そ の 他	84.3	106.8	109.6	57.7	59.1	116.8
	小 計	226.9	229.8	239.3	114.9	118.7	233.6
	輸 入	25.8	11.8	31.1	15.0	10.0	25.0
給	供 給 計	278.7	273.8	291.0	152.3	156.8	281.0
需要	内 蓄 電 池	180.1	178.8	184.8	87.9	94.1	182.0
	無 機 薬 品	32.0	32.8	32.6	15.6	15.6	31.2
	は ん だ	6.9	7.1	7.6	3.6	3.6	7.2
	需 そ の 他	27.1	22.9	25.5	12.1	12.1	24.2
	小 計	246.1	241.6	250.5	119.2	125.4	244.6
要	輸 出	1.4	4.4	1.2	0.3	0.3	0.6
需	需 要 計	247.5	246.0	251.7	119.5	125.7	245.2
期	末 在 庫	32.2	20.6	22.4	28.1	25.1	25.1
過	欠	▲ 1.0	7.2	16.9	4.7	6.0	10.7
設	備 能 力	274.2	274.2	274.2	137.1	137.1	274.2
稼	働 率	82.7%	83.8%	87.3%	83.8%	86.6%	85.2%
地	金 再 資 源 化 率	37.2%	46.5%	45.8%	50.2%	49.8%	50.0%

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。

表－３ 亜鉛地金の需給実績及び見通し

(単位：千トン)

		10年度	11年度	12年度	13年度(見通し)		
					上期	下期	計
期	初 在 庫	103.6	115.3	108.7	112.2	124.1	112.2
供	生 国 内 鉱 出	61.6	63.1	65.8	24.6	20.2	44.8
	海 外 鉱 出	455.8	463.6	476.4	243.7	262.6	506.3
	産 そ の 他	99.4	109.4	110.0	49.4	53.6	103.0
	小 計	616.8	636.1	652.2	317.7	336.4	654.1
	給 輸 入	100.4	63.8	77.2	43.9	23.9	67.8
給	供 給 計	820.8	815.2	838.2	473.8	484.4	834.1
需	内 亜鉛めっき鋼板	268.2	284.7	304.4	138.7	138.7	277.4
	その他めっき	89.8	107.6	102.4	49.6	55.0	104.6
	伸 銅 品	72.1	76.5	72.7	35.7	35.8	71.5
	ダイカスト	50.0	54.7	53.7	26.9	26.9	53.8
	需 そ の 他	58.9	69.7	65.4	34.0	34.1	68.1
需	小 計	539.0	593.2	598.6	284.9	290.5	575.4
要	輸 出	56.3	75.1	47.0	35.0	35.0	70.0
	需 要 計	595.3	668.3	645.6	319.9	325.5	645.4
期	末 在 庫	115.3	108.7	112.2	124.1	125.0	125.0
過	欠	110.2	38.2	80.4	29.8	33.9	63.7
設	備 能 力	697.2	701.1	698.4	349.2	349.2	698.4
稼	働 率	88.5%	90.7%	93.4%	91.0%	96.3%	93.7%
地	金 再 資 源 化 率	16.1%	17.2%	16.9%	15.5%	15.9%	15.7%

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。

表－４ 企業経営動向(非鉄大手8社)

(単位：億円、%)

	11年度実績	12年度実績	13年度計画
売 上 高	17,228	17,785	17,447
売 上 総 利 益	2,241	2,631	—
(売上総利益率)	(13.0%)	(14.8%)	(—)
経 常 利 益	559	889	832
(経常利益率)	(3.3%)	(5.0%)	(4.8%)
自 己 資 本 比 率	32.3%	34.3%	—

(注) 非鉄大手8社決算短信より作成